

■ 地域発見講座

第1講 テーマ 白洲正子と歩く甲賀路 ～かくれ里・近江山河抄より～

(会場:土山森林文化ホール)

開講式後、「紙ふうせん」による『大人のおはなし会』があり、今回もストーリーテリングで3題が披露されました。事前練習や集中力が必要とされる発表に、受講生一同驚きと賞賛の眼で聞き入っておられました。

そして、いかい先生による記念講演。白洲正子の眼では甲賀がどのように映り、どのように表現されるのか、ここに大きな期待が寄せられました。「もっともっと実例を挙げてほしかった」との意見があったほか、「身近な地名ばかりが出てきて話に引き込まれた」「私たちの生まれ育った地がこんなにも由緒あるところだったのか」「この1年で新しい生きがいが見つけられそう」等の声が寄せられました。受講生の感想は多方面にわたり、終戦時も日本人の誇りを失わなかった正子の夫白洲次郎、近江を詠んだ芭蕉、文学の世界に誘ってくださった自分の恩師先生のことにより思いは広がり、学びのモチベーションを高めるにふさわしい第1講となりました。



■ 地域発見講座

第2講 テーマ 阿弥陀如来拝観と交流会

(会場:十楽寺・山中公民館)

国道1号線鈴鹿隧道手前、摩耶夫人(お釈迦様の母)立像で有名な十楽寺。伽藍は織田信長氏により没収、一時消滅しましたが、仏像は村人の努力により無事護られました。そして1661年、広誉可厭大和尚(こうよかえんだいおしょう)の尽力により、万人講を募り、本堂・庫裡等が再建されました。ご本尊は日本最大級の「丈六阿弥陀如来様」。浄土宗総本山知恩院直轄の末寺として今日に至っています。

こんな激動の時代を生き抜いた十楽寺様を会場として、第2講は開催されました。講座日誌には、「丈六のご本尊様の大きさにびっくり」「当時の人々の信仰の深さに感動」「お釈迦様の教えについて、改めて学ぶことができた」「摩耶夫人のお話はなかなか外では聞けない」「これまでの自分の人生を反省した」等の感想のほか、『人生は、安心と心配の繰り返し』『動けるときに動き、頭は使えるときにつかう』の言葉が印象に残った等、住職様の法話に、受講生一同、自らの生き様を改めて見つめ直すいい機会になりました。

また、この日は、山中区様のご協力を得て、区公民館にて、地元名物「蟹が坂飴とお茶」で受講生間の「交流会」をもちました。



■ 地域発見講座

第3講 テーマ 甲賀のあけぼの ～甲賀の地形・地層～

(会場:みなくち子どもの森)

あることは知っているけれど・・・、受講生の皆さん多分このような状況ではないかとの判断から、今回は、みなくち子どもの森にて開催。予想通り初来館者多数。もうこれだけで地域発見講座の目的は一部達成。

館長の小西講師は、子どもの森の概要説明の後、230万年前の水口のようなすを見つけた化石から実証的に解説されました。その後、当時の地層(古琵琶湖層群)が露出している地点まで徒歩で移動し、火山灰と泥が交互に堆積している現場で学習。最後は展示館にて学習のまとめをし、太古の昔に思いを馳せることができました。

講座日誌には、「地域密着型の学習で、甲賀の成り立ちがよくわかった」「水口に象やワニがいたことが印象に残った」「今まで関心のなかった地質学に少し興味湧いてきた」「このようないい施設があること、学んだことを広めたい」「孫と一緒にまた来たい」など、好評を得る講座となりました。

また同日いただいたオールカラー刷りの「みなくち子どもの森自然観察資料集」を見て、甲賀の動植物についての講座開設を期待する声も聞かれました。



300～170万年前の地層

■ 体験的学習講座

第4講 テーマ「平山郁夫とシルクロード、佐藤忠良と樂吉左衛門の世界」

(会場:佐川美術館)

仏教伝来やシルクロードをテーマに掲げ、世界各地を巡られた画家平山郁夫氏と子どもや女性をモデルに、常に温かなまなざしで人間を見続けてこられた彫刻家佐藤忠良氏、そして、斬新な感性を発揮し、「手捏ね(てごね)」にこだわられた樂吉左衛門氏の作品を鑑賞。この三大巨匠と館自体が一つの大きなアートである佐川美術館、まさにアートづくしの中で第4講座開講。課題は、「美術への関心を高め、自らの文化性をどう高めていくか」。

講座記録には、「作品に込められた作者の主張や願いを解説していただき、今まで馴染みのなかった美術鑑賞に興味をもった」「制作者のバックグラウンドを知って鑑賞させていただくと作品への親近感が湧く」「美術作品の見方や目のつけどころの理解が進んだ」「画材・建材にも目が向き、鑑賞の幅が広がった」などが記され、講座の成果が記録の随所に表われていました。「館の展示計画を見落とさないように注意し、今後も足を運びたい」など、本講座は、一人ひとりの芸術へのスタイル・スタンスが形づけられる契機にもなりました。

わかり易い講義とすばらしい会場、整理の行き届いた資料を提供して下さった佐川美術館様に深甚なる御礼を申し上げたいと存じます。



井上学芸員による講義

第5講 テーマ「ストレッチ運動」

(会場:甲賀健康医療専門学校)

会場は H4 創立 ルネス学園。人間が生きるための最も重要なのが健康。このコンセプトのもと、健康の維持増進のために、医療とスポーツの両分野からアプローチを行っている甲賀健康医療専門学校。受け入れ対象は高卒以上。地元の学校・医療機関でありながら、足を運ぶ機会はあまりなく、今回の講座で初めて学校を知った方も多数。講義はストレッチ運動、筋力アップトレーニングの重要性が述べられた後、時間の大半をストレッチ運動の実技に費やされました。特徴は、①体のどの部位に効果を及ぼすのかを詳しく解説されたこと、②ゆっくりとしたスピード、座位・立位をバランスよく組み込まれたこと、③いつでもどこでもできる内容であったことで、受講生の年齢を考慮した内容となっていました。講座後、質問・意見が多数出て、講師先生や学校スタッフの皆さんが驚いておられました。健康に対する意識の高さを改めて感じる講座でした。



井上講師



第6講 テーマ「レザークラフト」「オリジナル陶板づくり」 <選択講座>

(会場:信楽高等学校)

今回の講座の特徴は、初めての試みとなった選択講座。講師先生の都合、準備ができる部屋のキャパシティ、実習に必要な用具の数など、いろんな条件を協議し、午前が皮のコースターづくり、午後が陶板づくりとなりました。7月に受講生の希望調査実施。結果、レザーに希望が偏ったため電話にて調整。やはり実習はインパクトが強く、「牛の1枚皮におどろき」「粘土の自在制に少し感動」、「まちおこしの姿が垣間見えた」、創作活動については、「難しかった」「自分のデザイン力不足を痛感」「時間不足」「講師先生の丁寧な指導が嬉しかった」「終わってみればとても楽しかった」という感想が多数寄せられました。

レザーの作品は同日に持ち帰り可。陶板は乾燥・素焼(800℃)・本焼(1250℃)を経て完成となるため、手元に届くのは10月頃になる予定です。希望を叶えてくださいました信楽高校指導スタッフ一同様に厚くお礼を申し上げます。



山崎講師



杉村講師

上・下
レザ
ー
陶
板
づ
く
り

■ 理論学習講座

第7講 テーマ「これからの人生設計と家計管理」

(会場:立命館大学)

ファイナンシャルプランナー江畑講師によるマネー講座。日常生活に直結するテーマであり、受講生の関心はいやが上にも高まりました。準備していただいた資料はワークシート形式になっており、講義に集中できるしかけがありました。特に、昨年度のマネー基礎講座「よくわかる金融政策」を受けられた方にとっては、社会の金融状況(日銀と市中銀行の関係)と自分の経済生活とを結びつけ、セカンドライフのありようを考えるいい機会になったのではないのでしょうか。受講生の記録には、「定年退職直後。いいタイミングでの講座だった」「今まで私はザル生活。家計簿をつけねば」「『人生終わりよければすべてよし』『過ぎたことは忘れてよい』が印象に残った」など感謝のコメント多数。わかり易い講座でした。



江畑講師